

中学校 道徳 実践事例②

主題名 主として人との関わりに関すること(第1学年 B-8友情・信頼)

教材名「泣いた赤おに」(光村図書「中学道徳2 きみがいちばんひかるとき」)

◆本時の概要

内容項目 B-8友情・信頼について、多面的・多角的な視点や考え方から内容項目に対する理解を深め、よりよい人間関係を築いていくきっかけとなるように本授業を設定した。

教材を読んで生まれた疑問を基に生徒がいくつかの問いを設定することで、生徒が主体的に問題意識をもち、内容項目に向き合える工夫を取り入れた。

生徒はそれぞれ深めたい問いを選択し、その問いについて考えたことを基に、同じ問いの生徒や違う問いの生徒と議論することで多面的・多角的な視点から内容項目について考えを広げ、主体的に道徳的値の理解を深めていった。

1 ねらい

赤おにと青おにの友情に関わる物語を通して、「本当の友情」とはどのようなものかを考え、他者と意見交換をすることで、友情には様々な形や見方があることに気づき、他者とよりよい友情関係や信頼関係を築いていける態度を育てる。

2 教材について

本教材は、人間と仲よくなりたい赤おにと、自分が悪役になることで赤おにの願いを叶えようとする青おにの物語である。赤おには人間と仲よくなりたいのに、怖がられてしまい、やるせない思っていた。そこで友達の青おにはある計画を持ちかける。人間の家で暴れる青おにを、赤おにが懲らしめるという計画はうまくいき、赤おには人間と仲よくなった。一方、青おには計画が露見しないように遠くへ去る。しばらく経って、それを知った赤おには涙を流す。

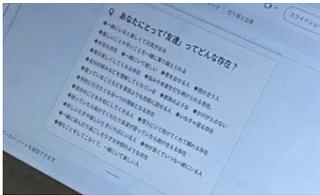
本教材では、赤おにと青おにの行動や心情から、友達関係の在り方を考えることで、友情について多面的・多角的な視点から考えを広げ、友情の形や見方は一つではなく、だからこそ生徒自身が自分にとっても相手にとってもよりよい友達関係を築いていこうと考えるきっかけとしたい。

3 生徒の実態

本学級は、様々な活動を楽しみながら前向きに取り組もうとする雰囲気が見られる。同地域の二つの小学校から進学してきており、同じ小学校内では互いの性格もある程度理解できており、それを踏まえた人間関係や関わり方ができている。中学校から一緒になった生徒に対しても、入学当初は距離感を図りながら生活する様子も見られたが、現在では分け隔てなく学校生活を送っている。

幼少期からのつながりが強く、また、現在もそれを土台としながら学級の仲間を「楽しく過ごすことができる、仲のよい友達」と捉えているからこそ、友達関係にも様々な形や見方があることに気づき、よりよい関係を築くことができるように授業を展開していく。

4 学習指導過程

過程	学習活動と主な発問	・生徒の反応	指導上の留意点
導入 (10分)	1. 本時は「友情」について考えを深めていくことを確認する。 2. 事前アンケートの「友達ってどういう存在？」で出された意見を集計したものを提示し、どのような認識をもっているかの共通理解を行う。 3. 「泣いた赤おに」の内容を確認する。	・楽しく遊ぶことができる存在。 ・相談に乗ってくれえる存在。 ・困ったときに助けてくれる存在。	・事前アンケートを集計し、1人1台端末で提示できるようにしておく。 
展開 (30分)	1. 探求する問いを設定する。 ・周囲の生徒同士で意見交換後、全体で共有する。 ・出された意見を基に、生徒がいくつかの問いを設定する。 【設定する予定の問い】 ・「青おには幸せだったのだろうか。」 ・「青おにの行動は、『本当の友達』と言えるか。」 ・「本当の友達とは、どのような存在なのだろう。」 2. 本時の流れを確認する。 ・スライド3枚目を提示し、流れを確認する。 3. 探究① ・生徒が各自で問いを選択、その問いについて自分の考えをまとめる。 ・複線型授業の形式で行い、探求の方法は自由に設定(個別、友達と相談、教員に質問)してよい。	・「赤おに／青おにはどうすればよかったのか。」 ・「この後、どうなったのか。」 ・「親友とは何だろうか。」    ・「青おには赤おにのことを友達だから大切に思って行動した。」 ・「赤おには青おにのことを友達だと思っていたから後に涙した。」 ・「自分は辛い思いをするのに、それって友達って言える？」 ・「赤おには自分ばかり幸せで、青おにに対して何も思わない？」	・考えを深められそうな問いが出た場合は、そのまま採用する。 ・難しい場合は、要素を拾いながら、複数の案を合わせた問いを教師が支援しながら設定する。 ・あらかじめ設定する予定の問いを考えておき、「こんな問いが考えられるのではないか」という形で、提示する。 ・物語の内容についてだけでなく自分の経験を踏まえた意見を構築できるよう、全体・個別指導を行う。 ・相手のことを考えて行動したから友達」といった、赤おにの幸せのみ注目している意見に対しては、反対の立場で考えさせる問い返しを行ったり、1人1台端末にコメントを記入したりする。

<p>展開 (30分)</p>	<p>4. 情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒と口頭で意見交換を行う。 <p>5. 参照・コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末で他の生徒のワークシートを参照し、コメントを記入していく。 <p>6. 探究②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再度、問いについて自分の考えを深める。 ・複線型授業の形式で行い、探求の方法は自由に設定(個別、友達と相談、教員に質問)してよい。 	 <p>・青おには赤おにを幸せにしたつもりでも、赤おには幸せではなかったのだから、本当の意味で相手を思っていたとは言えない。</p> <p>・自分が損をしても相手のことを思って行動できるくらいの関係性があるのだから、二人の間には友情があった。</p> <p>・どちらか一方が損をしてしまう関係にならないよう、友達とよく話をしていきたい。</p>	<p>めざせ、コメント職人！キミのコメントで仲間をレベルアップ！</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ〇〇なの？」・「〇〇をもっと詳しく！」 ・「どうやって〇〇するの？」 ・「〇〇について、私は△△と思うんだけど」など </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【他にも...】</p> <p>★仲間の考えで気になった部分について、 深くつっこんであげよう！</p> </div> <p>・話し合いの視点やポイントを共有しておく。</p> <p>・停滞している生徒に対して机間指導を行い、支援する。</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>1. 本時のまとめを記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【本時の問】青おには幸せだったのだろうか</p> <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸せだったと思う。でも、赤おにと離れ離れになくて、悲しいけど嬉しい気持ちのほうが大きかった。 ・赤おにの役に立てて嬉しかった。 ・嬉しいけど、悲しい。 <p>【自分の考え①】赤おには人間と仲良くなって、友達がいいると自分も嬉しくなる。でも、このまま青おにだけが働かれる生活を送っているより誰にも働かされず、自分も楽しい生活を送れているから幸せだと思う。</p> <p>【自分の考え②】赤おにが人間と仲良くなって、赤おにの役に立つことができて嬉しかったと思う。でも、今度は自分が人間から悪く思われると赤おにと離れ離れになってしまうから、赤おには幸せだけど、青おににとってはあまり幸せではないと思う。</p> <p>【まとめ】</p> <p>【友情とは今更の物語のように、どちらかが得をして得るのではなく、お互い得をして得がないようにしてあげるのが愛情だと思う。今日の問は、赤おにの役に立って幸せだけど、友達とは違って自分から赤おにに幸せなのだろうかというところで悩んだ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>自分の考えの変容や深まりを感じながら記入する。</p> </div> <p>2. 自己評価シートに記入する。</p>	<p>○以下の点を意識したまとめができるよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについてどのように考えたか。 ・自分の考えがどう変わったか。 ・他者の意見から影響を受けた(悩んだ)ものはどんな意見だったか。 ・影響を受けた(悩んだ)意見に対して、この授業を通して自分はどのように考えたか。 	<p>○以下の点を意識したまとめができるよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについてどのように考えたか。 ・自分の考えがどう変わったか。 ・他者の意見から影響を受けた(悩んだ)ものはどんな意見だったか。 ・影響を受けた(悩んだ)意見に対して、この授業を通して自分はどのように考えたか。

5 評価の視点

- 1) 赤おに、青おにの行動について考えることを通して、友情や信頼関係を深めるために友達とどのように関わることが大切か多面的・多角的な視点から考えている。
- 2) 話し合いを通して、今後、よりよい友達関係を築いていくために何ができるか、どのような考え方を大切にしたいかについて自分事として考えを深め、自己を見つめている。

6 評価の実際

本時の学習では、生徒が自ら問いを考え、選択した問いを基に様々な視点から友達との関わり方について考え、他者との話し合いや自己内対話を通して、友情に対する道徳性を養うことができていた。

- 1) 生徒は、**道徳的価値の理解につながる問いを設定**し、探求活動を行ったことで、生徒たちがこれまでもっていた「友達」という存在に対する考え方は**別の視点もあるのではないかと気付き、他者と意見を交換することで、その理解を深めようとする姿勢**が見られた。最終的には、「一方が損な役回りを担う関係は健全ではない」、「相手を思ってとった行動が必ずしも相手を幸せにするわけではない」「だからこそ相手のことを本当の意味で考える必要がある」といった、今までとは違った見方があることに気付く生徒も見られた。

A 選択した問い「青おには幸せだったのだろうか」

【まとめ】 ・テーマについて(感想) ・他の人の意見で印象的なこと ／それについての考え ・自分の考えに変化はあったか ／悩んだポイントはあったか	友情とはお互いがお互いを思い合うことだと思う。青おにが旅に出ずに住む方法はあったんじゃないか、どうすれば赤おにが泣かなくてすんだのか、色々考えたけど、わからなかった。お互いがお互いのことを思いあったから、この方法が思いついて、赤おには青おにがいなくなって泣いてしまった。思い合うことで、片方が傷ついてしまうかもしれない。けど、それはそのくらいその友達の事が大切なんだということが伝わってくる。一人だけが幸せになるのではなく、両方幸せになれる方法を見つけることが大事ということがわかった。
--	---

→赤おにを思う青おにの心や、青おにの行動で赤おにが涙したことについて考えることを通して友情に関する道徳性が養われている記述が見られた。本時の学習で、友情には、互いを思い合い、一人だけが幸せにならないようにすることが大切であることを納得解として導き出している。

B 選択した問い「赤おにと青おには『本当の友達』と言えるだろうか」

【まとめ】 ・テーマについて(感想) ・他の人の意見で印象的なこと ／それについての考え ・自分の考えに変化はあったか ／悩んだポイントはあったか	友情はお互いの気持を考えて行動することだと思う。今回の青鬼の行動は赤鬼が泣いてしまうところまで考えていなかった。その結果お互いが悲しかったり心に何かが残った。と思う
--	--

→赤おにと青おにのやりとりから「本当の友達」について考えている記述が見られた。「心に何かが残った。」というまとめの文からも友情について考えが広がり、**モヤモヤしている気持ち**が表れている。机間指導などで「心に残った何か」と友情の関係性について考えさせる問い返しを準備するなど、更に内容項目の理解を深める手立てが必要であった。

C 選択した問い「青おにはどうすればよかったのだろうか」

【まとめ】 ・テーマについて(感想) ・他の人の意見で印象的なこと ／それについての考え ・自分の考えに変化はあったか ／悩んだポイントはあったか	お互いが幸せになれる方法を一緒に探し出して一緒に幸せになれるのが友情だと思った
--	---

→この問いを選択する生徒は少なかった。「どうすれば」を問うことによって「こうすればいい」という一つの答えや、行動や行為に目を向けてしまう記述が見られた。**方法ではなく、その奥にある思いや道徳的価値に目を向けられるような問い**を生徒と一緒につくることの重要性を感じた。

- 2) 問いへの探求活動を通して「友情」や「信頼」について理解を深めることができた。一方で、よりよい友達関係を築いていくためにという観点では理想論的な考えにとどまる生徒も多く、自分事として捉えられる段階まで至らなかった。この点については、本時のまとめを行う際に「自分だったらどうするか」など、**生徒が自分事として考える視点を意図的に仕組み**、指導することで生徒一人一人の道徳性を養っていきたい。

7. 成果と課題

成果

- ・ 1人1台端末の活用によって、**一斉に他者の意見を可視化することが可能**となり、必要な人と交流をするための手立てとして効果的であった。また、これまで意見発表に苦手意識をもっていた生徒が**自分の考えを端末上で表明し、他者と共有することができるようになった**。
- ・ 本時の問いを設定するに当たり、まず生徒に考えさせ、出された案を授業者が整理しながら具体的な問いを設定する方法をとった。この方法をこの時間を含め数回行っているが、回を追うごとに**生徒から出される問いの案が授業のねらいに迫る問いに近付いてきており、自分達で課題を設定する力が付いてきている**と感じる。
- ・ 上記の方法で問いを設定し、そこから選択式で最終的な問いを各自で選択することで、**自分が選択した問いについてより主体的に考えようとする姿勢も見られるようになった**。
- ・ **問いについて考える場面では、「探求①」「情報交換」「コメント・参照」「探求②」というように段階を設定した**。これにより、生徒達は問いを**探求する流れ**を身に付けてきていると感じる。また、**情報交換を積極的に複数の生徒と行う姿勢も身に付いてきており、多面的・多角的な意見に触れる機会を自ら設定できるようになってきている**。

課題

- ・ 意見交換を行う際、**特定の生徒との交流のみで終わってしまう生徒も見られた**。問いについて考える際、自分と違う考えの生徒との交流をどのように仕組んでいくべきか検討する必要がある。生徒たちは**自分の人間関係の中で意見交換をする傾向**が見られるため、「**自分の考えを深める**」**視点を意識**させ、そのために必要な活動ができるよう指導していく必要があると考える。
- ・ 授業者が設定しているねらいは「最終的には自分事として考える」ことであったが、今回設定した問いは内容項目を理解するための側面が強く、理想論的な結論で終わってしまう生徒も見られた。ねらいに迫るためには、内容項目の理解に加え、それを踏まえて自分はどうか考えるか・自分ならどうするのかといった、**生徒が自分事として考えようとする意識付け**が重要であると考える。

学習活動の流れを黒板に掲示し、生徒の端末にも送ることで、見通しをもった学習活動を展開することができる。流れをイメージしながら自分のペースで学習を進めることが可能となる。

道徳的価値についての理解を深めるために4つの諸様相について黒板に貼り出し、本時の授業で何を指すか明確にすることによって生徒の学びに向かう方向性を示す。

1人1台端末にコメントを記入する際のキーワードや議論する際のポイントなどを示すことによって、議論の質が高まり、対話を通じた学びの深まりを生み出す環境を整えることができる。



協働的な学びによって互いの考えを広げたり、深めたりする姿



端末で他者参照をしながら、自らの考えを整理する姿



教材に立ち戻って自己の考えを再構築する姿



複線型の授業によって、それぞれの生徒に適した学習環境が保障されている。